

きゅうり露地栽培での生産安定に向けて

J A阿蘇 小国郷営農センター 園芸課
長谷部 博一 氏

令和3年度JA事例発表報告

JA名	JA阿蘇	所属部署	小国郷営農センター 園芸課																
報告者	長谷部 博一																		
タイトル	きゅうり露地栽培での生産安定に向けて																		
連携した部門																			
<p><発表者の経歴></p> <p>① 平成11年(西暦1999年)、部署名園芸課、主な担当業務営農指導・TAC</p>																			
<p><対象となる部会・グループ・担い手の状況></p> <p>①担い手の区分： 部会 グループ 個人 農業法人 集落営農組織</p> <p>②活動時期：令和2年5月～令和2年11月</p> <p>③主要作物・栽培面積：きゅうり12ha(内対象1.7ha)</p> <p>④他特徴：JA阿蘇管内小国郷きゅうり部会では春・秋冬の雨よけ・施設栽培と夏秋の露地栽培が行われている。標高450～900mの山間高冷地での栽培となっている。</p>																			
<p><取り組みに至った背景・・・担い手のニーズ等></p> <p>小国郷きゅうり部会は露地6.5：施設3.5と露地主体の生産体制となっている。露地栽培は病害虫被害を受けやすく、近年の台風・異常気象等の影響で年々栽培期間が短くなっており、生産者の高齢化も課題となっている。また、露地は耐病性の品種が少ない為長持ちしにくい。</p>																			
<p><取組内容></p> <p>露地栽培でハウス品種(耐病性)の導入。</p>																			
<p><取組の成果></p> <p>例年に比べて病気で枯れが減り、対象圃場での栽培期間の延長となった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>出荷日数</th> <th>50日以内</th> <th>50～100日</th> <th>100日以上</th> <th>平均出荷日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>36%</td> <td>55%</td> <td>9%</td> <td>66日</td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>27%</td> <td>55%</td> <td>18%</td> <td>70日</td> </tr> </tbody> </table>					出荷日数	50日以内	50～100日	100日以上	平均出荷日数	R1	36%	55%	9%	66日	R2	27%	55%	18%	70日
出荷日数	50日以内	50～100日	100日以上	平均出荷日数															
R1	36%	55%	9%	66日															
R2	27%	55%	18%	70日															
<p><事業効果：取扱数量・金額></p> <p>R1 面積1.9ha、取扱量98t、金額32,901千円、反収5.2t、反収金額1,732千円</p> <p>R2 面積1.8ha、取扱量96t、金額35,569千円、反収5.4t、反収金額1,976千円</p>																			
<p><今後の展開></p> <p>今後は取組農家を増やしていき、きゅうりの生産安定に繋げていきたい。</p>																			

きゅうり露地栽培での生産安定 に向けて

JA阿蘇 小国郷営農センター 園芸課
長谷部 博一

JA阿蘇の概要

- JA阿蘇の地形は、阿蘇五岳を中心とする世界最大級のカルデラや広大な草原を有し、比較的平坦地が多く水田の広がる阿蘇谷(標高約450~500m)と、起伏に富み傾斜地の多い阿蘇外輪地域(標高800~1000m)で形成されている。
- 気候は年平均気温が約13°Cで、年間降水量は約3000mm。季節を通じて比較的冷涼で多雨な地域であり、平坦地では稲作を中心とした農業が盛んで、山間地では高冷地野菜の生産に取り組んでいる。



小国郷地区概要・実績



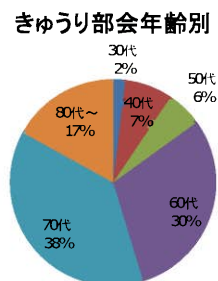
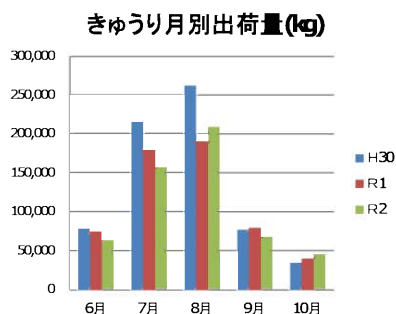
小国郷地区の園芸品目については、標高約400~1000mの高冷地で主要品目のほうれん草・大根・きゅうりが栽培され、その他に生椎茸・春菊・パセリ・甘藷・七草・花卉等の栽培が行われている。

【小国郷地区主要園芸品目実績】

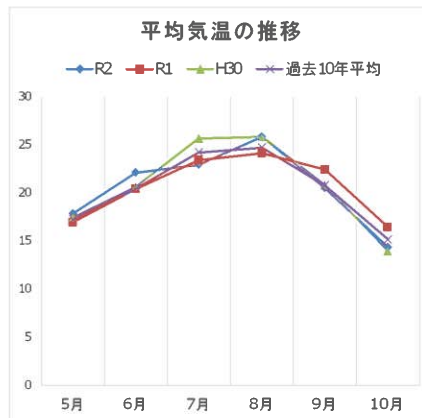
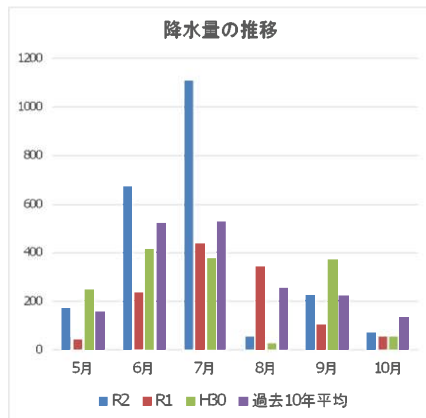
部会名	年	戸数(戸)	面積(ha)	販売金額(千円)	出荷量(t)
ほうれんそう部会	R2	100	71.9	222,577	384
	R1	102	75.1	250,150	449
大根部会	R2	20	88.4	204,802	2,602
	R1	20	88.4	248,516	3,044
きゅうり部会	R2	53	12.8	221,579	579
	R1	56	13.5	203,118	597

取り組みに至った背景

小国郷きゅうり部会は露地6.5施設3.5と露地主体の生産体制となっている。露地栽培は病害虫被害を受けやすく、近年の台風・異常気象等の影響で年々栽培期間が短くなっており、生産者の高齢化も課題となっている。また、露地品種は耐病性が少なく長持ちしにくい。



取り組みに至った背景

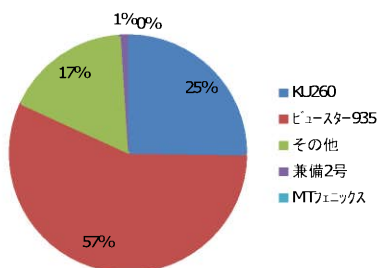


取組の内容

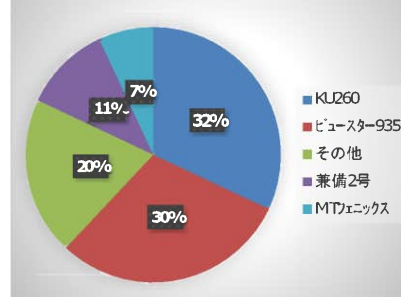
露地栽培でハウス品種(耐病性)の導入

露地の既存の品種では長雨等が続く時、防除の遅れ等で病気の蔓延をまねきやすく早期終了しやすいので、耐病性のあるハウス品種への移行を進めた。

R1年度露地品種



R2年度露地品種



取組の成果

【きゅうり年間出荷回数】

	年度	50回以内	50~100回	100回以上	平均出荷日数
部会全体	H30	28%	53%	19%	69
	R1	46%	36%	18%	66
	R2	38%	40%	23%	68
導入者	R1	36%	55%	9%	66
	R2	27%	55%	18%	70

【きゅうり反収実績】

	年度	面積(ha)	出荷量(t)	反収(t/10a)
部会全体	R1	13.5	594.7	4.4
	R2	12.8	576.9	4.5
導入者	R1	1.9	98.1	5.2
	R2	1.8	96.3	5.4

今後の展開

- 今回の取組で梅雨時期定植の露地栽培での栽培期間延長が確認出来た。
- ハウス品種は露地品種ほど出荷日量が多くないが長期取りすることで反収にも影響はあまりなかった。
- 導入品種によっては果形の時期によるブレもあった為、優良品種の選定が今後の課題。
- 今後は未導入者への普及を行い、夏秋きゅうりの生産安定に努めていきたい。

ご清聴ありがとうございました

JA阿蘇 小国郷営農センター 園芸課
長谷部 博一